

ドブレ 540WD 取扱説明書



WOOD BURNING STOVE

目次

はじめに	2
表示記号の説明、警告	2
注意、ご使用になる前に	3
各部の名称	4
使用方法	4~6
薪の特徴と使用の注意	
準備	
ドアの開閉	
着火	
薪の追加	
消火	
灰の掃除	
空気の流れ	
日常のお手入れ	7~9
ガラスの清掃	
ストーブ表面のお手入れ	
灰の清掃	
煙突の掃除	
お部屋の換気口の掃除	
ガスキットの交換	
バーミキュライトの交換	
設計標準使用期間	
パーツリスト	9
トラブルシューティング	10
連絡先一覧	11

この度は本製品をお買い上げいただきありがとうございます。

正しく安全にご使用いただくため、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

取扱説明書、設置説明書の内容がいつでも確認できるよう、大切に保管してください。

はじめに

本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的なメンテナンスが必要です。

この取扱説明書をよくお読みになり、十分理解されてからご使用ください。

また、この取扱説明書に示されている使用方法および安全に関する注意事項は、本製品を指定の使用目的に使用する場合のみに関するものです。

この取扱説明書に示されていない使用法は、絶対に行わないでください。

お買い上げの製品と詳細において予告なく仕様を変更する場合があります。

ドブレストーブの機能を十分発揮させ、効果的かつ安全にお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになった後は、この取扱説明書を大切に保管してください。

表示記号の説明

お客様や他の人への危害や財産への損害を未然に防ぐために、安全上のご注意をよくお読みになり、正しくお使いください。

この章に示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

記号と意味は下記のとおりです。内容をよく理解してからお読みください。



警告：警告事項を守らないと死亡や重傷に至る重大な事故を起こす恐れがあります。



注意：注意事項を守らないとケガを負う、または製品に損傷を与える恐れがあります。



警告

- ガソリン、灯油、プラスチック、ビニール、ゴム、竹、発泡スチロール、ベニヤ、化学塗料で塗装された木材などは絶対に燃やさないでください。また、ストーブを焼却炉として使用しないでください。本体や煙突の耐久性を弱める、あるいは有毒ガス発生の原因となる恐れがあります。
- ストーブの上や周囲および煙突の周囲には、紙・衣類・洗濯物など可燃物を置かないでください。火災の原因となる恐れがあります。
- ストーブの周囲には、ガソリン、ベンジン、スプレー缶など引火の恐れのあるものを置かないでください。火災の原因となる恐れがあります。
- ストーブや煙突は、絶対に改造しないでください。正常な機能が損なわれる恐れがあります。
- 居室の給気口は常に確保し、家具などでふさがないようにしてください。室内の空気が不足し酸欠状態になる、あるいは煙や炎が室内に戻ってくる恐れがあります。
- 燃焼中にドアのガラスにヒビが入るなどして破損した場合は、使用を中止し、修理が完了するまで使用しないでください。
- 灰は、必ず不燃性の容器に入れてフタをし、可燃物のない場所に保管し、完全に鎮火後、廃棄してください。灰を処理するときに紙袋や樹脂製バケツなどは、絶対に使用しないでください。灰が入っている容器を可燃物の上に置かないでください。灰は冷めているように見えても長時間火種が残っています。
- 煙道内火災は煙突だけでなく、建物本体にもダメージを与えて火災の原因となる恐れがあります。一年に一回以上煙突を掃除してください。
- ストーブから離れるときは、すべてのドアがロックされていることを確認してください。薪が崩れてドアが開き、燃焼中の薪や火種がストーブの外に落ちて、火災の原因となる恐れがあります。
- 屋根に上って作業をする場合は、安全を確保しておこなってください。

注意

- 燃焼中および燃焼後しばらくの間は、ストーブや煙突は高温になっておりますので、絶対にさわらないでください。火傷の原因となります。
- ドアおよび給気口の開閉操作、着火、薪の投入など、ストーブを扱う場合は、必ず保護手袋を装着してください。燃焼中および燃焼後しばらくの間、ストーブは大変熱くなるため、直接触れると火傷の原因となります。
- ストーブの輻射熱を長時間、直接皮膚にあてると火傷の原因となります。特に、乳幼児、お子様、お年寄り、身体の不自由な方がストーブの近くにいる場合は、まわりの方が注意してください。
- 薪を入れ過ぎ、または燃焼空気を取り入れ過ぎることなどによる、ストーブおよび煙突の過熱に注意してください。過熱は、ストーブ本体および煙突の破損や劣化を早めるばかりでなく、火災につながる恐れがあります。
- 常に乾燥した薪をご使用ください。乾燥が不十分な薪は燃えにくく、クレオソート（煤・タール）が多く発生し、煙道内火災につながる恐れがあります。
- シーズンのはじめに、ストーブおよび煙突を点検してください。煙の排気を妨げる、木の枝や鳥の巣などを取り除いてください。延焼し火災につながる恐れがあります。
- 灰は、ストーブ本体が冷えている状態で処理してください。火傷の原因となります。
- ガスケットは、ストーブ本体が冷えている状態で交換してください。火傷の原因となります。
- ストーブ表面は、ストーブ本体が冷えている状態でお手入れしてください。火傷の原因となります。
- ドアのガラスは、ストーブ本体が冷えている状態でお手入れしてください。火傷の原因となります。
- ドアのガラスの縁に直接触れると、ケガの恐れがあります。メンテナンスの際は、軍手などをはめてください。
- ガスケットを交換するときは、お部屋の床や家具が汚れないように養生してください。
- 吹きこぼしなどによって、調理中に天板が汚れた場合は、必ずストーブが冷めてから、表面を掃除してください。加熱中に表面を掃除すると、火傷の原因となります。
- 燃焼中はドアを開ける前に、燃焼用給気口が全開であることを確認してください。給気口を閉めているときにドアを開けると、急な大量給気によって、炎がドアから外に出る恐れがあります。
- 煙突掃除の際は、お部屋の中が煤だらけにならないように周囲の養生をしてください。

ご使用になる前に

初めのご使用時は、薪を燃やすと薪ストーブ本体および室内煙突に塗られていた錆止め油や塗料が馴染むまで、臭いや煙が出ることがあります。臭いや煙が出た場合は、窓を開けるなどして十分換気してください。また、メンテナンスで塗料を塗り直した場合にも、同様に臭いや煙が出ることがあります。十分換気してください。

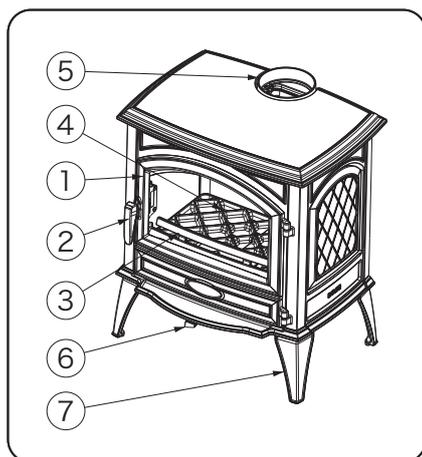
□ 薪ストーブと気密性の高い建物

建物には排気のための換気扇や、室内へ空気を取り入れるための室内給気口が設置されていますが、給気口を閉じたり、給気が十分でないで室内が負圧になり、煙が煙突から屋外へ排気されずに室内へ戻る場合があります。これは、煙突が室内給気口の働きをするためです。室内に煙が戻ってきた場合は、換気扇を止めたり、室内給気口を開けたり、窓を少し開けたりしてください。室内の負圧状態が解消され、薪燃焼に因る煙突の自然の上昇気流による排気の力が戻ります。

また、煙突や炉の中が十分暖まっていない時にドアを開けた場合にも、煙が戻ることがあります。

大きな地震などの天災により、損傷の恐れがある場合には、使用せず、煙突ジョイント部等の確認をしてください。使用の再開については、弊社または特約店、販売店へご相談ください。

各部の名称



1. ドア
2. ドアハンドル
3. ログガード
4. 炉床
5. 口金
6. 給気調整レバー
7. 脚

使用方法

⚠ 注意

ドアおよび給気口の開閉操作、着火、薪の投入など、ストーブを扱う場合は、必ず保護手袋を装着してください。燃焼中および燃焼後しばらくの間、ストーブは大変熱くなるため、直接触れると火傷の原因となります。

○薪の特徴と使用の注意

十分乾燥した薪を使用してください。薪以外の燃料は使用しないで下さい。割ったばかりの薪は、湿気が多く不完全燃焼によって煙が多く発生し、湿った排気は煙突内を汚します。薪の湿気は燃焼により水蒸気となり炉の中で凝縮し、炉内の隙間によって漏れることがあり、床に黒い汚れた水が落ちることがあります。

薪の樹種を選ぶことも大切です。『ナラ、ブナ、クヌギ、サクラ、リンゴ、ニセアカシア』などの広葉樹といわれている木は、薪に適しています。身が詰まっていて重く樹液が少なく、火持ちが良いためです。『マツ、スギ、ヒノキ』などの針葉樹は樹液が多く、火持ちはあまりよくありませんが、火力が強いため、焚きつけに適しています。

樹液の多い薪は、火力が強いため、そればかりを燃やすと炉を傷めたり、煙突内が松脂のようなドロリとしたススで汚れたりすることがあります。そのため、主燃料には広葉樹の薪を使用することをお勧めします。

以下の燃料を使用しないでください。環境を汚染するばかりでなく極度にストーブ内部と煙突内部を汚し、煙突火災の原因となります。

▷ 廃材の薪、塗装した木材、防腐木材、合板等

▷ プラスチック、再生紙及び家庭廃棄物

○準備

ストーブを使用するために、下記のものを用意します

- ・よく乾燥した薪
- ・着火材
- ・焚き付け用の薪
- ・マッチまたはライター
- ・サーモメーター
- ・保護手袋
- ・フタ付きの不燃性の容器(灰入れバケツ)
- ・十能(ファイヤーセットのシャベル)

○ドアの開閉

ドアの操作はドアハンドルを使用します。

ドアハンドルを手前に引くとロックが外れドアが開きます。

開いたドアは元の位置に戻し、ドアハンドルを押し込むと

ロックが掛かりドアが閉じます。

※ドアの開閉を繰り返していくと、ドアハンドルの塗装がうすくなっていくことがあります。ご使用には問題はありません。

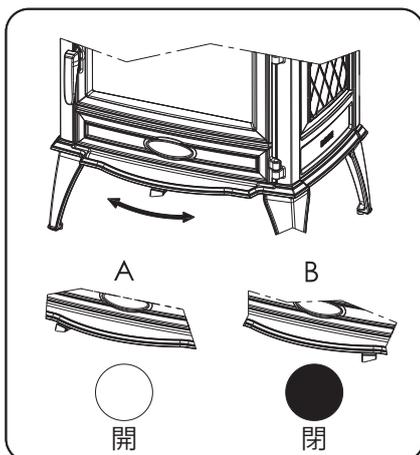


⚠ 注意

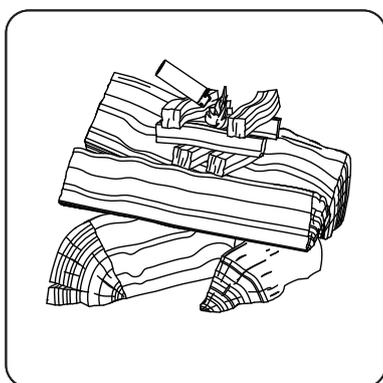
ドアを勢いよく閉じると、衝撃でガラスにダメージを与えることがありますので、軽く押し込んで下さい。

○着火

1. 給気レバーを左に寄せ、給気口を全開にします。



2. ドアを開けます。
3. 焚き付け用薪等を炉床に積みます。
着火剤を必要数薪のそばに置きます。
4. マッチやライターで着火剤に火を付けます。
5. 炎が起きてきたら薪を2本程(約1.5kg程度)入れます。



※ワンポイント(上図)
薪の上に焚き付け薪をのせ着火する方法も有ります。

6. ドアをゆっくり閉めます。
7. 天板の温度が200°C位になったら給気レバーを閉側にスライドさせ、炎を見ながら徐々に給気を絞ります。
完全に閉めてしまうと炎が消えてしまうことがあります。
炎が完全に消えないようにレバーを調節してください。

○薪の追加

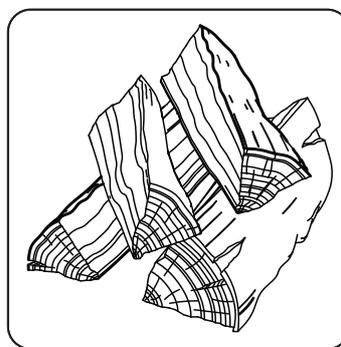
1. 炉の中の薪が十分におき火の状態になったら薪を追加します。
2. 給気口を全開にしてから、ドアをゆっくり開いてください。
3. 炉の底を掻き上げ、アッシュベッドを平らに広げてください。
4. アッシュベッドの上に薪を積み重ねてください。
5. ドアをゆっくり閉じてください。
6. 炉内の燃え方によって給気調整を行ってください薪の追加は45分あたり約1.5kgを目安にしてください。
燃やし過ぎは本来の能力を発揮できず、炉内パーツの早期消耗にもなりますのでご注意ください。

アッシュベッド(灰床)

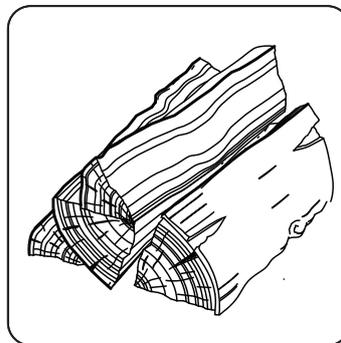
薪が燃えた後、少量の灰が残ります。灰によって出来る層はアッシュベッドと呼ばれ本体を保護し保温効果や、助燃効果がありおき火を長持ちさせます。炉床に平らに均し給気の妨げにならない程度にためて下さい。

⚠️ 注意

炉内の上部に3分の1の隙間が必要です。
(薪の詰めすぎには注意してください)



・開いた積み方
給気が薪の廻りを効率良く廻って速やかに燃焼します。燃えの悪い場合は、間隔を開けた積み方を作ってください。



・詰めた積み方
薪を詰めるように積み重ねられれば、給気がいくつかの薪だけに廻り比較的ゆっくり燃えます。
より長い間薪を焚きたい場合は、詰めた積み方を作ってください。
※詰めた積み方をする場合には十分なおきが必要です。

○消火

1. 正面ドアを閉めてください。
2. 薪の火が消えるまでそのまましておきます。
自然に鎮火させてください。

緊急時の消火

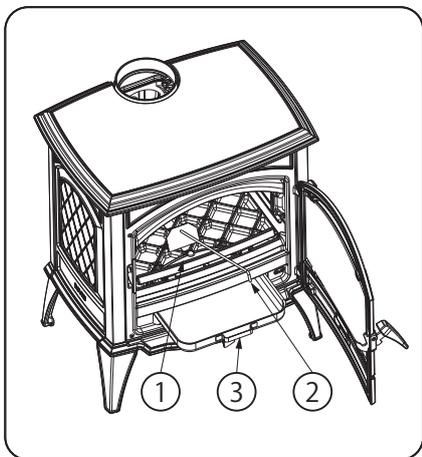
緊急時の消火については、消火器を炉の中に噴射する。
または、濡れた布を炉床に投入する方法があります。
この方法は、ストーブを壊す恐れが大きいので、緊急時の最終手段です。

○灰の掃除

⚠ 注意

灰は、ストーブ本体が冷えている状態で行ってください。
火傷の原因となります。

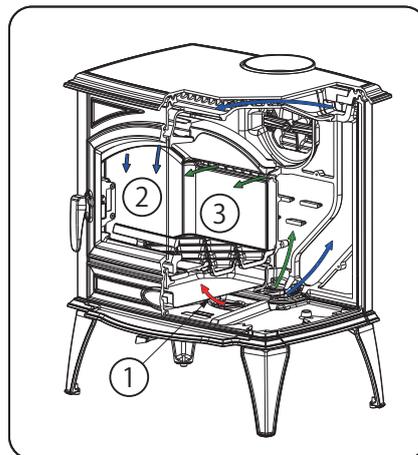
薪が燃えた後少量の灰が残り、この残された灰によってアッシュベッドとなり(P5参照)、炉床の保護と保温に効果があります。しかし、炉床の給気口は塞がないようにすることと、炉床の給気の流れを妨げない為に、灰が必要以上溜まらないようにこまめに灰受け皿の点検をしてください。
シーズン終了後は、灰をすべて取り除いてください。
灰は湿気を吸うため、サビの原因となります。



1. 正面ドアを開けてください。
2. 炉内の灰落としカバー①を開き、火掻き棒②を使って、灰を灰受け皿に落としてください。
このとき、炉床の波形に沿って残った灰は残してください。
3. 灰落としカバー①を元に戻してください。
4. 灰受け皿③の灰を捨て、空にしてください。
5. 灰受け皿を戻し、正面ドアをゆっくり閉じてください。

○空気の流れ

ストーブに空気の流れに関するいくつかの特徴があります。
(下図参照)



1. すべての給気は背面1ヶ所の給気口から供給され給気レバーひとつで給気経路の調節を行います。
2. 1次燃焼用給気①は炉床下部から給気され、初期燃焼を促進します。
3. エアカーテン②は炉床下部から背面の空気層、および天板内部の空気層を順に通過し炉の温度に近くなった新鮮空気をガラス面上部から吹付けることにより、ガラスの曇りを防ぎます。
4. 炉背面の給気口③は燃焼で上がった炎に給気することによって、排気をきれいにします。

⚠ 注意

ドアを開けたまま薪を燃焼させないでください。
定期的に薪をくべて燃焼させてください。
薪の燃焼中に給気を極度に閉めたり、低い温度での燃焼ではススやクレオソートが溜まりやすくなります。ススやクレオソートの付着が進むと、煙道内火災の原因になりますのでご注意ください。

⚠ 警告

ストーブから離れるときは、すべてのドアがロックされていることを確認してください。
薪が崩れてドアが開き、薪や火種がストーブの外に落ち、火災の原因となります。

1. すべてのドアを閉めて、ロックします。
2. 薪の火が消えるまでそのまましておきます。

日常のお手入れ

⚠ 警告

灰は、必ず不燃性の容器に入れてフタをし、可燃物のない場所に保管し、完全に鎮火後、廃棄してください。灰を処理するときに紙袋や樹脂製バケツなどを、絶対に使用しないでください。灰が入っている容器を、可燃物の上に置かないでください。灰は冷めているように見えても、長時間火種が残っています。燃焼灰の処分は所轄の行政機関の処理方法に則り処理して下さい。

⚠ 注意

灰は、ストーブ本体が冷えている状態で行ってください。火傷の原因となります。薪ストーブををよい状態に保つために本章中の保守指示に従ってください。

- シーズンが始まる前に煙突を点検し、必要に応じて専門家による煙突掃除を推奨します。
- シーズン中に一度は煙突の点検をお勧めします。
- シーズンが終わったら煙突を点検した後、汚れが酷い場合は掃除をしてください。

○ガラスの清掃

使用頻度によって、ガラスは煤が付着するなどして汚れることがありますので以下の手順により清掃を行ってください。

⚠ 注意

ドア、ガラスの清掃はストーブ本体が冷えている状態で行ってください。火傷の原因となります。ドアガラスの縁に直接接触すると、ケガをする恐れがあります。メンテナンスの際は軍手等をはめてください。

1. 乾いた布でガラス表面のススなどを強く擦らずに拭き取ってください。
2. ガラスクリーナー（液状）などを使用する場合はスポンジなどに適量取り、強く押しつけずに、拭いてください。ガラスに洗浄成分が残らないように丁寧に拭き取ってください。

○ストーブ表面のお手入れ

⚠ 注意

ストーブ本体が冷えている状態で行ってください。火傷の原因となります。

1. ストーブ表面の焦げつき、サビなどを古歯ブラシでこすって落とします。落ちない場合は、やわらかいワイヤーブラシ、または目の細かいサンドペーパーで磨きます。
2. 本体に合った純正品のスプレー塗料を塗って自然乾燥させます。

○灰の掃除

灰が炉床にたまってきたら、灰を取り除きます。詳細については、「使用方法」灰の掃除を参照してください。（P6）

○煙突の掃除

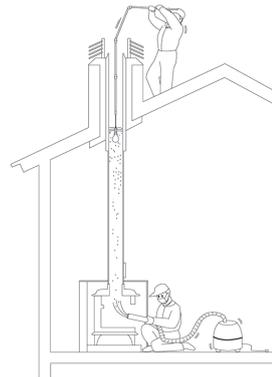
⚠ 警告

煙道内火災は煙突だけでなく、建物本体にもダメージを与えて、火災の原因となる恐れがあります。1年に1回以上、煙突を掃除してください。屋根に上って作業をする場合は、安全を確保しておこなってください。弊社または特約店、販売店へご連絡いただければ、煙突およびストーブの掃除および点検をいたします。

⚠ 注意

煙突掃除の際は、お部屋の中が煤だらけにならないように周囲の養生をしてください。

薪を燃やすと、ススやクレオソートが煙道内に付着します。クレオソートは、木のタールの蒸留によってできる液体です。クレオソートは着火点が低いため、煙道内火災の原因となります。ストーブの使用頻度にもよりますが、1年に1回以上は煙突を掃除し、ススを取り除いてください。弊社または特約店、販売店へご連絡いただければ、煙突およびストーブの掃除および点検をいたします。



煙突掃除の際は、お部屋の中が煤だらけにならないように周囲の養生をしてください。

○お部屋の換気口の掃除

薪ストーブライフを快適におくるにはお部屋の換気が重要です。お部屋には空気を取り入れるための換気口が設置されています。

換気口に取り付けられているフィルターは定期的に掃除してください。

※換気口の場所・掃除方法については工務店、ハウスメーカーにお問い合わせください。

⚠ 注意

換気口やフィルターがホコリやゴミ等で目詰まりすると、お部屋が十分に換気されず必要な空気がお部屋に入らなくなるため、室内が負圧状態になります。負圧になると着火しづらい、煙がお部屋に戻ってくる等の原因となります。

⚠ 警告

お部屋の換気が十分にされないと、空気が不足し酸欠や、一酸化炭素等を含んだ煙がお部屋に漏れて、重大な事故につながるおそれがあります。

○ガスケットの交換



注意

ガスケットの交換は、ストーブ本体が冷えている状態で行ってください。火傷の原因となります。

ドアガラスの縁に直接触れると、ケガをする恐れがあります。メンテナンスの際は保護手袋、マスク等で保護して作業を行ってください。

ガスケット（ドアなどの内側周囲についているグラスファイバーロープ）は、ドアとストーブ本体の隙間を埋める部品です。ガスケットが消耗するとドアを密閉できなくなり、余分な空気がストーブ内に流入します。

3年前後を目安に、交換が必要になります。煙突掃除および点検作業のときに一緒に交換することをおすすめします。

1. マイナスドライバー等でガスケットのつなぎ目に差し込み、端から取り出します。



2. ガスケットを端から引きはがします。



3. 端についているガスケットセメントやガスケットの繊維を、マイナスドライバー等で取り除きます。ガスケットセメントを取り切れない場合は、ワイヤーブラシやサンドペーパーで溝をならします。細かいホコリ等はウェスで拭き取ります。



4. 新しいガスケットセメントを溝に充填します。
5. ガスケットを溝にピッタリと貼り込みます。
1本のガスケットを使用してください。
継ぎ目が多いと密閉度が低下します。



6. 余分なガスケットを切り取ります。
ガスケットの端は、浮かないようにしっかりと溝に押し込みます。
 7. ガスケットセメントを自然乾燥させます。
ガスケットセメントの自然乾燥には、約1日かかります。
- 急激に乾燥させるとセメントがひび割れたり、はがれたりすることがあります。自然に乾燥するのを待ってください。
 - ガスケットロープは引っ張って充填しないでください。空気漏れの原因となります。

○バーミキュライトの交換



注意

バーミキュライトの交換は、ストーブ本体が冷えている状態で行ってください。火傷の原因となります。ドアガラスの縁に直接接触すると、ケガをする恐れがあります。メンテナンスの際は軍手等をはめてください。

ドアガラス、炉内部等は保護具を付け作業周辺部は養生を十分に行い作業を行ってください。

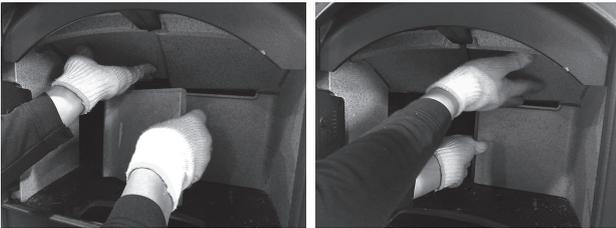
1. ドアを開けログガードを外してください。



2. 背面バーミキュライトを外します。

左側のバツフルバーミキュライトを少し持ち上げ、左側の背面バーミキュライトを真ん中より手前に引き外してください。

同じように右側のバツフルバーミキュライトを持ち上げ右側の背面バーミキュライトを外して下さい。



3. バツフルバーミキュライトを外します。

左側のバツフルバーミキュライトを少し持ち上げ、右側のバツフルバーミキュライトを外します。

その後、左側のバツフルバーミキュライトを外して下さい。



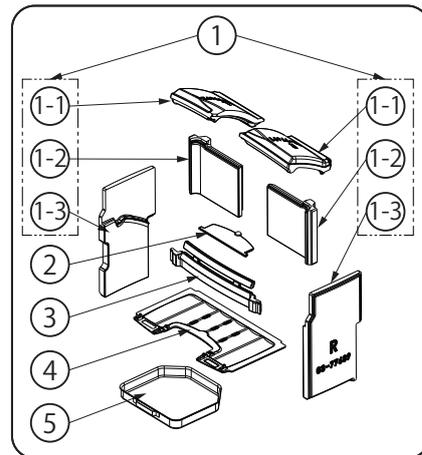
4. 側面バーミキュライトを外してください。

左右どちらからでも外せます。



5. バーミキュライトの取付は逆の順番で行って下さい。
バーミキュライトを取り付け、最後にログガードを取り付けます。

パーツリスト



1. バーミキュライトセット
 - 1-1 バツフルバーミキュライト
 - 1-2 背面バーミキュライト
 - 1-3 側面バーミキュライト
2. 灰落としカバー
3. ログガード
4. 炉床
5. 灰受皿

○設計標準使用期間

設計上の標準使用期間 - 5年

本期間は設計上の目安であり、また期間内でもその期間を過ぎても製造者や輸入者、販売者が無償修理や無償交換の義務を負うものではありません。

標準的な使用環境と使用条件下で、取扱説明書に従いメンテナンスを行い正しく使用した場合、設計標準使用期間を5年とし、適切な点検を行わずこの期間を超えて使用されますと、経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。

トラブルシューティング

トラブル	原因	対処法
火の燃えが良くない	薪が湿っている	よく乾燥した薪を使用してください
	太い薪だけを使用している	焚き付け用薪を多めに使用してください
	給気量が少ない	燃焼用給気口を開けてください
	煙突やトップ部にススやクレオソートがたまっている	煙突を掃除してください
屋内に煙が戻る	換気扇が回っている	換気扇を止めてください(負圧の解消)
	炉の中の温度が十分上がっていない状態でドアを開けた	本体の構造上多少煙が戻ってきますが故障ではありません
	建物周辺で下降気流(ダウンバースト)が起きている	局所的、短時間にまれに発生する気象条件です、天候の回復を待ちお使いください
	煙突が短い	煙突を追加する必要があります。弊社または特約店、販売店までご連絡ください
	煙突やトップ部にススやクレオソートがたまっている	煙突を掃除してください
薪の燃えが早すぎる	1次燃焼用給気口が全開になっている	天板の温度が180~250℃位になったら、1次燃焼用給気レバーを調整してください 火を弱める場合は、給気口を閉めます
	針葉樹を燃やしている	ナラ・ブナなどの広葉樹を使用してください 松等の針葉樹は、ヤニなどの高燃焼成分が多く、広葉樹に比べ燃焼は早くなります ゆっくり炎を楽しむ場合には広葉樹をおすすめします
	細い薪を多く使用している	太い薪を使用してください
	ドアがしっかり閉まっていない	ドアを閉めてロックしてください
	ガスケットが消耗している	ガスケットを交換してください
	ガラスが汚れやすい タールが漏れる	薪が湿っている
	給気口レバーを閉めるのが早い	全体が暖まっていないときに給気を絞ると、不完全燃焼となり、ススが多く発生します 薪とおき火の状態により給気口を調整する 漏れたタールは随時拭き取ってください
金属音がでる	鋳物の膨張収縮できしみがでる	異常ではありません
ストーブがなかなか暖まらない	薪が十分に乾燥していない	よく乾燥した薪を使用してください

※点検確認作業はストーブ本体が冷えている状態で処理してください。火傷の原因となります。
弊社または特約店、販売店へご連絡いただければ、煙突掃除及び点検整備いたします。

【輸入元】

株式会社メトス

— 昭和飛行機グループ —

札幌営業所 〒060-0041 札幌市中央区大通東7丁目（ノースシティ大通ビル）
TEL.011-272-3201 FAX.011-272-3205

仙台営業所 〒981-3135 仙台市泉区八乙女中央1-7-5 八乙女オフィスビル
TEL.022-771-5242 FAX.022-371-9671

東京営業所 〒104-0045 東京都中央区築地6-16-1（築地616ビル）
TEL.03-3542-0573 FAX.03-3544-1874

名古屋営業所 〒465-0004 名古屋市名東区香南2丁目1309-1
TEL.052-763-2811 FAX.052-763-2870

大阪営業所 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-6-6（大阪華東ビル）
TEL.06-4803-0168 FAX.06-4803-0456

福岡営業所 〒812-0015 福岡市博多区山王1-1-32（博多堀池ビル）
TEL.092-471-5801 FAX.092-471-5802

沖縄出張所 〒900-0022 那覇市樋川2-6-1兼城ビル
TEL.098-894-9779 FAX.098-894-7155

製品の点検修理・部品のご用命はこちらまで





「人」の「心」と「体」をあたためる